

第2部 部門別協議会 (クラブ研修リーダー部門)

新見葵サブリーダー (地区研修委員)の総合司会により進行。

まず、大谷透リーダー (次年度地区研修リーダー・PG) による「軸のぶれないロータリアンになるために」と題する基調講演があり、ロータリーの研修の目的はロータリアンとして持つべき職業観のほかに人間として、社会人として持つべき人生観・価値観を認識することであるというメッセージが示された。ロータリーは人生のタテ軸(信念・価値観)とヨコ軸(具体的な実践現場、人と人の交わり)を教えてくれる人生の道場である。「四つのテスト」の理念はタテ軸の象徴的な例であるが、「Rotary Fellowship」は、仲間とのつながりによってロータリー精神を育む世界という意味で、ヨコ軸にあたる。すべてのロータリアンに個々の人生にとって必要なロータリーのタテ軸をしっかり持って頂く作業を手伝うのが研修委員の役目であると話された。

次に、地区研修委員会で作成され、2015年4月に地区から全クラブにメール送信された「クラブ研修マニュアル標準モデル」につき、川崎壽サブリーダー (地区研修委員) からその内容と取扱いについて説明がある。川崎氏は、このクラブ研修マニュアルを各クラブの実情にあわせた工夫をしてクラブ活性化に役立てて頂きたいと述べ、このマニュアルに関する意見を地区研修委員会に寄せて欲しいとのことであった。

その後、フォーラム (意見交換会) に移り、フロアーから、清水高志氏 (大阪西南) が、退会防止を目標に増強委員会とのコラボで新入会員へのアンケートと個別面談を実施し新入会員歓迎会やインフォーマルミーティング等の機会を捉えての新人研修に取り組んでいるとの体験が語られた。次に、長嶋貞孝氏 (池田くれは) から会員にロータリールールを守らせることを心がけ、毎例会後 (夜例会) スナックを借り切って会員みんなで新人教育と親睦に取り組んでいるとの報告があった。播磨章一氏 (大阪堂島) からは、競争原理を念頭に数クラブ合同で研修を行い、横のつながりを図りながら成果をあげることも有効ではないかとの提言があった。

活発な発言の総括として、大谷リーダーから新入会員に居場所を作ってあげることが大切であり研修リーダーの皆さんはロータリアンの成長のお手伝いをする役目と考えて研修を心がけて頂きたいと締め括られた。